

森のおくりもの4月



ヒオドシチョウ（タテハチョウ科）



3月も半ばを過ぎたあたりから暖かい日が徐々に多くなり、ここ自然観察の森では、春の訪れを待っていたかのように、成虫で冬を越した蝶が森の中を舞いはじめています。

成虫で越冬する蝶たちは、冬の間、寒さをしのぎ、外敵から身を隠すように羽を閉じて、落ち葉の中や木の陰でやがて来る春をじっと待ちました。

天気の良い日に森を歩いていると、陽だまりの中で羽を広げて体を温めている蝶の姿をしばしば目にすることがあります。さらによく観察してみると、羽が痛んでいる個体も多く、彼らにとっての冬越しの大変さを物語っています。厳しい冬を生き抜いた蝶たちが休息しているのを見ると、「お疲れさまでした」と声をかけてあげたくになりますね。

【写真・文 近藤晋也】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『 青天の霹靂（せいてんのへきれき） 』

暖冬とはいってもそれなりに寒くてつらい冬が終わり、“暑さ寒さも彼岸まで”という通り、春分の日が近づくに連れて寒さはやわらぎ、暖かく感じる日が多くなってきました。セリバオウレンが咲き誇る早春の光景に続き、カタクリなど春の花が次々と開花して、冬から春へと急ピッチで模様替えです。

春分は二十四節気の一つですが、二十四節気をさらに約5日ずつに分けた七十二候での春分の末候は「雷乃発声（かみなりすなわちこえをはっす）」で、遠くで雷の音がし始める頃という意味です。この頃の雷を「春雷（しゅんらい）」といい、春の季語となっています。春の訪れを告げる雷といわれ、雷鳴に驚き、冬眠していた地中の虫たちが目覚めると考えられたことから「虫出しの雷」という呼び名もあります。

春は雷が旬の季節だと知り、雷といえば『青天の霹靂』が思い浮かびました。「晴れ渡った青空（青天）に、突然雷鳴（霹靂）が響くということから、突然予期しない大事件や変動などが起こること」という言葉です。

今、新型コロナウイルス感染症で世界中が大変なことになっています。それまでの何気ない日常の暮らしが、ある日突然何もかも変わってしまいました。こんなことになるなんて想像もしなかった事態で、まさに「青天の霹靂」でした。終息の時期が見えず、みなさんも不安を抱えていることと思います。

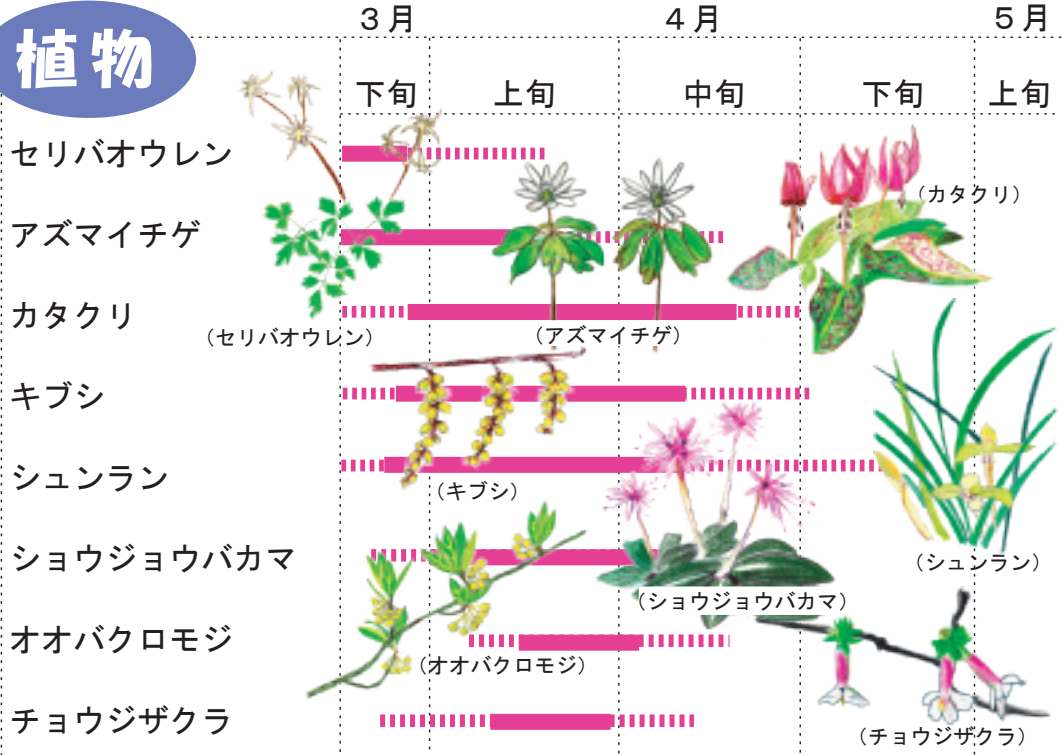
自然は今年も変わらずいつもと同じ春の光景が巡ってきました。ありふれているけれど、いつもと変わらないことができるのは、とても幸せなことなのだとあらためて気づかされました。

青天の霹靂は、悪い意味だけではなくいい意味でも使います。いつの日か良い「青天の霹靂」が起こるといいですね。 【レンジャー：新田隆一】



4月の生物ごよみ

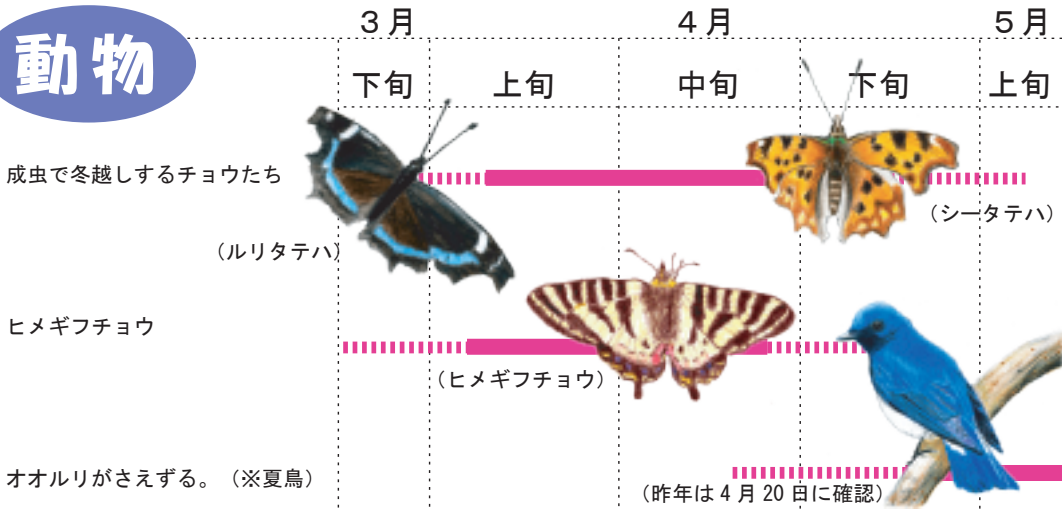
植物



今年は植物の開花時期が早く、カタクリは『チョウの野原』で昨年より6日も早く3月13日に開花の確認をしました。

ヒメギフチョウも昨年よりも2日早い出現で、3月25日に『はおとの道』で確認することが出来ました。早春を知らせるウグイスの初音は3月10日と昨年より2日も早く聞くことができました。

動物



【レンジャー：齋 正宏】

※夏鳥 春に東南アジアなどの越冬地から日本に渡ってきて繁殖し、秋には帰っていく鳥。日本にいる期間は種類によって違うが、おもに3月～10月の間になる。

森の「おとしもの」



その 20 「春の小さな花たちに」



春です！キクザキイチゲ、ショウジョウバカマ、そしてカタクリなど森では今かわいい花たちに次から次へと出会えますよ（写真上）。

今回の一押しは“すみれ”です（写真下）。小さくてみな同じっぽいけど、よ～く観察すると花に特徴があったり、咲く時期が早かったり遅かったり、葉より花が先に出たり、葉の形や色に違いがあったりと個性豊か。

そんな花たちに元気をもらいながら、この困難な日々が一刻でも早く終息するよう、強く強く願うばかりです。 【レンジャー：木田秀幸】



ヒナスミレ



マキノスミレ



アケボノスミレ



ナガハシスミレ



タチツボスミレ

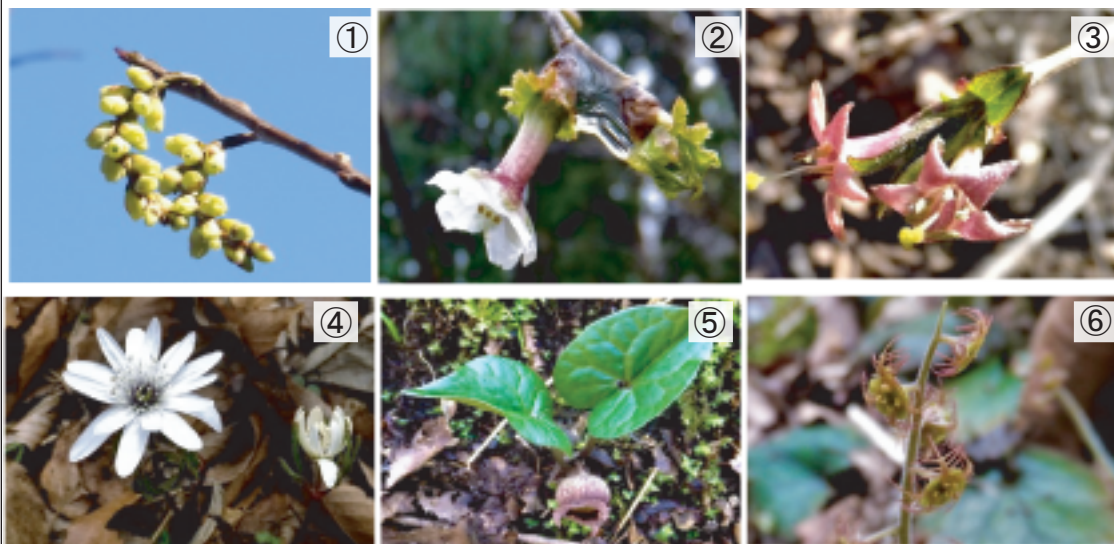


エイザンスミレ

森は糸 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

観察の森では、2月初旬に開花したセリバオウレンが満開の時期を終え、実がなり始めています。樹木で最初に開花したマンサクに続き、キブシやチョウジザクラが見ごろを迎えています。観察路の周辺には、春の妖精カタクリやアズマイチゲ、キクザキイチゲと共に、何種類ものスミレの花が咲き始めました。ヒメギフチョウも飛び始め、まさに春爛漫の様相になってきました。(^^♪



写真の①は、キブシの花です。去年の夏に準備した花芽が、見事開花しました。②は、チョウジザクラの花です。枝にぶら下がるような花が他のサクラに先駆けて咲いていました。③は、ミヤマウグイスカグラの花のようです。葉や小枝、花卉の裏側、特に子房の表面に腺毛が多く見られるのが特徴です。④は、アズマイチゲの花です。キクザキイチゲと違って白花しかなく、葉の切れ込みは浅く、おしべの根元が紫色になります。樹々の若葉が広がるころには地上部が枯れて、地下茎で翌年まで休眠します。⑤はトウゴクサイシンです。袋のような花が咲いていますね。ヒメギフチョウの幼虫はこの葉を食べて蛹になります。⑥は、コチャルメルソウです。とげとげの花弁がおもしろいですね。下の⑦から⑨はネコノメソウのなかまです。花びらに見えるのはがくです。がくの色やおしべの数、葯（やく）の色などで区別しますが、似ているようでよく見ると違いがありますね。(^^♪

【レンジャー：菅原幸彦】



新型コロナウイルスの感染拡大防止の措置について

イベントの中止及び施設の利用制限（トイレの利用は可能）を引き続き4月12日迄行います。
（4月5日時点）14日以降については当館のブログを参照されるか直接お問い合わせ下さい。



4月のイベント & お知らせ

◆おはよう野鳥かんさつ

日本野鳥の会宮城県支部の竹丸勝朗氏を講師に迎え、春の森を歩きながら野鳥の声と姿を探します。【日 時】4月18日（土）午前6時半～8時 【持ち物】あたたかく歩きやすい服装と靴、観察用具（身分証提示で双眼鏡貸出しあり）

※申込み不要です。開始時刻までに観察センター前までお集まりください。



◆太白山の春をたずねて

日本森林インストラクター協会の大友良三氏を講師に迎え、春の花咲く太白山に登ります。【日 時】4月25日（土）午前10時～午後3時 【持ち物】昼食、飲物、雨具、歩きやすい服装と靴、帽子 【定 員】20名

【申込み】4月7日（火）9時より電話受付



◆ガイドウォークは4月より午前と午後の2回です。

午前10:00～11:30 と午後1:30～3:00の開催（5日と12日は中止です）



◆新型コロナウイルスの感染拡大や天候の急変等によりイベント中止の場合があります。

毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日！

開催予定：19日、26日（確認下さい）

開催時間：10:00～11:30 13:30～15:00

今月のテーマは「春の森の楽しみ」

◆4月26日午前は「館長と森を歩こう」です。

4月の休館日

6日（月）、13日（月）、
20日（月）、27日（月）、

※月曜日が祝祭日の場合は
火曜日が休館です。



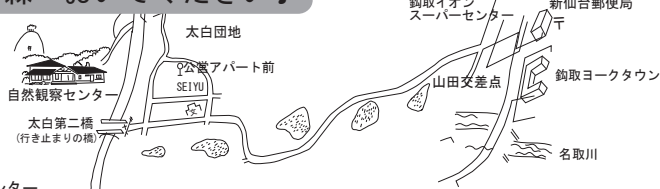
宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
（※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」）
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ、
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！

2020年4月号（毎月1回5日発行）
発行：（公財）仙台市公園緑地協会
編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133